



ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

令和7年7月15日(火)、群馬会館にて「ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム」が開催されました。シンポジウムでは、本誌デザイン募集に係る表彰式、自治体による取組紹介、そしてハートビートプラン代表・泉英明氏による特別講演が行われました。

第1部 表彰式

第1部では、令和6年度の本誌表紙デザイン募集で最優秀賞に選ばれた桐生大学の田村春日さんへの感謝状贈呈が行われました。若者の感性を活かした取り組みが評価されました。

第2部：みどり市「官民共創デザイン」の取組紹介

第2部では、みどり市都市計画課の高瀬聡氏が登壇し、「大間々官民共創デザイン」について紹介されました。同市では令和4年度から「リノベーションまちづくり事業」を実施し、既存の資源を活用し、民間主導の取り組み



取組紹介の様子

が進められてきました。令和5年度からは、民間の「やりたいこと」を行政計画に反映させる新たなまちづくり方針の策定がスタート。対象エリアは大間々町中心部で、策定では「既存資源の活用」「民間主導＋行政支援」「小さなアクションの同時展開」が重視され、市民や行政職員、有識者が参加するワーキンググループで議論が重ねられました。令和7年3月には、エリアビジョン「みらいをつくるみんなのさんぽ～おおま・わがま・あるがまま～」が公表され、市民が主役となるまちづくりが目指されています。

今後は、中心市街地の空洞化や経済循環率の低下といった課題に対し、ウォークラブルなまちづくり、リノベーションスクール、ポケットパークの社会実験などを展開される予定です。

第3部：特別講演「新たなまちづくりのプロセス」

第3部では、泉英明氏による特別講演「エリア価値を高める新たなまちづくりのプロセス」が行われました。従来の「行政主導で先に施設を整備する手法」に代わり、初期段階から市民や運営主体が関与する「逆三角形型プロセス」の重要性が強調されました。

この手法では、「作る人＝使う人」と捉え、社会実験を通じて将来の活動や収益性を検証し、空間・制度設計に反映させることで、実行力あるまちづくりを目指します。事例としては、大阪の「北浜テラス」や「なんば広場」が紹介されました。



特別講演の様子(泉英明氏)

今回のシンポジウムを通じて、都市の魅力は「空間と人の活動の掛け合わせ」にあること、そして持続的なまちづくりには行政と民間が対等に連携し、マネジメントに重点を置くことの重要性が再確認されました。

